

大規模コーパスとWebを利用した現代イギリス英語 における副詞differentとdifferentlyの分析

著者	西部 真由美
雑誌名	東邦学誌
巻	36
号	2
ページ	101-110
発行年	2007-12-01
URL	http://id.nii.ac.jp/1532/00000149/

大規模コーパスとWebを利用した現代イギリス英語における副詞differentとdifferentlyの分析

西部 真由美

目次

- 1 はじめに
 - 1.1 副詞の2つの形態
 - 1.2 先行研究
 - 1.3 分析の目的
- 2 分析方法
 - 2.1 言語資料と手順
- 3 結果と考察
 - 3.1 think different/ly
 - 3.2 do different/ly
 - 3.3 know different/ly
 - 3.4 say different/ly
 - 3.5 まとめ
- 4 おわりに

1 はじめに

1.1 副詞の2つの形態

副詞には形態的に2つの種類がある。非形容詞化接尾辞である-lyが付加した語 (probably, actually, simply, etc.) と、そうでない語 (again, together, well, etc.) である。副詞は通常このどちらか一つの形態をしているが、なかには-lyで終わる副詞でありながら-lyが脱落した形態でも使用される両形副詞 (dual-form adverb) が存在する。二つの形で意味が違ってくる語 (hard/ly, late/ly, etc.) もあるが、次の (1) (2) のようにどちらの形でも同じ意味を表す場合がある¹⁾。

- (1) He drove quick/quickly.
- (2) We got the house cheap/cheaply.

これらの例 (1) (2) にあるような、副詞の働きをする形容詞と同じ形態をした-lyのない語は「単純形副詞」 (flat adverb, zero-form adverb) という用語で呼ばれており、これに対して-lyで終わる語は「-ly (形) 副詞」 (-ly (-form) adverb) と呼ばれている。

1.2 先行研究

現代英語における単純形副詞に言及する論文・文法書などはあるものの、単純形副詞について詳細に分析を行った研究は数少ない。実質的には、大規模英語コーパスが利用できるようになった今世紀になって初めて本格的に研究され始めたと言って良からう。

Opdahl [4] は、英・米の英語のコーパスを利用した両形副詞の実証的研究である。この研究では、LOBコーパス、BROWNコーパス、Oxfordコーパス、およびICE-GBコーパスの分析とインフォーマントによる両形副詞を含む例文の認容度 (acceptability) 調査が併用されている²⁾。この研究で分析された両形副詞は、cheap/ly, clean/ly, clear/ly, close/ly, dear/ly, deep/ly, direct/ly, easy/easily,

fair/ly, flat/ly, high/ly, loud/ly, low/ly, quick/ly, right/ly, sharp/ly, short/ly, slow/ly, wide/ly, wrong/lyの20語であり、動詞の後に来る例だけを扱っている。これらの語は出現頻度に大きな違いがあり、得られた結果も多様であった。しかし全体的には、単純形副詞が選択される統計的に有意だった要因として、略式体や比較級の文、女性よりも男性、大学卒業後より入学前の人であることが報告されている。

コーパスを利用した別の実証的な研究として、Tagliamonte&Ito [7] の論文が挙げられる。これは英国ヨーク地方の方言を対象に、社会言語学的観点（性別、年齢、職種、学歴など）から単純形副詞の使用頻度差を調査した研究である。この研究ではコーパスに現れた全ての単純形副詞を量的に分析しているが、強調副詞 (real/ly, awful/ly, absolute/ly, etc.) と文修飾副詞 (definite/ly, honest/ly, etc.) も分析対象に含め、単純形と-ly形で意味の違いがあるもの (late/ly, hard/ly, direct/ly, short/ly, etc.) は除外している。この研究では、realの使用が高年齢層に多いことと、学歴が低い男性に単純形が多く見られる傾向があることが指摘されている。

この他の先行研究や文法書にある記述なども含めて、単純形副詞について一般的に認められている特徴は次のように概括できる。単純形副詞は主に口語表現や略式体で、アメリカ英語に多く現れる [9, p.441] [10, p.6] [6, p.27]。単純形副詞は引き締まった力強い感じを与える効果がある [9, p.441]。文中の位置に関しては、-ly形には制限はないが、単純形は原則として動詞の後、または目的語があればその後に来る。比較級や最上級の文では単純形副詞が頻繁に現れる [5, pp.405-6]。

単純形副詞はイギリスでも非標準的な方言には多く見られるが、アメリカほどには常用され

ていないと言われている [1, pp.93-4] [7, p.259] [8, p.168]。この頻度差の要因の一つとして、イギリスでは規範文法で単純形副詞を認めていないのに対して、アメリカではWebsterの辞書に早い時期から記載されたために広く世間に容認されたことが指摘されている [4, p.25] [7, p.237]。

しかし、近年のイギリス英語では、特にこの10年ほどの間に単純形副詞が増加する傾向にあるという指摘がある。Crystal [2, p.327] では、最近の標準的なイギリス英語 (Estuary English) の特徴の一つとして、単純形副詞が挙げられている。また、Dent [3, p.112] では、1998年のアップル・コンピュータのキャッチフレーズ “Think Different” が世界で流行して以来、単純形副詞がイギリスでも増加していることが指摘されている。

1.3 分析の目的

そこで本研究では、これまで両形副詞として認識されず先行研究で扱われていない語 different/-lyを取り上げ、近年のイギリス英語におけるその出現状況とその語法の特徴を分析する。特に、その単純形と共起する動詞に焦点を置き、この10年間で最も頻繁に利用されている大規模英語コーパスと、言語資料として最近注目されているインターネットのWebの言語資料を用いて分析を行う。

2 分析方法

2.1 言語資料と手順

使用する言語資料は、大規模英語コーパス British National Corpus World Edition (以降 BNC) [13] と、インターネットのWebページの言語資料である。

BNCはその93%が1985年から1994年までの書き言葉 (90%) と話し言葉 (10%) で構成

され、総計10億語にもなるイギリス英語コーパスである。このコーパスの書き言葉の部分のみを分析対象とし、1994年以前のイギリス英語の資料として利用した。BNCの検索ツールは、SARA version 0.98とインターネット上のサイトVIEW (Variation in English Words and Phrases) を使用した³⁾。

BNCより新しいイギリス英語コーパスは入手不可能なため、自身で作成する必要がある。そこで、インターネットのWebページから検索エンジンGoogleを利用して文字列differentまたはdifferentlyを含む文を抽出した。

資料の作成手順は、Googleで文字列differentまたはdifferentlyを検索し、その検索結果画面に現れた文面をテキストファイルで保存し、それに品詞タグ付けソフトBrill's Taggerでタグ付けをした後、コンコーダンサーソフトAntConc3.2.1wで動詞+different/-lyを中心とした一定の長さの文のKWIC形式に成型し、エクセルファイルに保存した⁴⁾。このうちdifferentの次に名詞が来る検索例、つまり形容詞であるものは手作業で削除した。また一つのサイトから同じ例が何度も検索されている場合には、手作業で2回目以降を削除した。

なお、Googleでの検索ドメインはac.uk (イギリス学術機関) とgov.uk (イギリス政府機関)

に限定し、資料には略式体や会話文が出来る限り少なくなるよう配慮した。また、アップル・コンピューターのキャッチフレーズとして使われる場合を除外するため -computer, -appleを加えた。Googleでは1000件を超える検索結果は表示されない。また、検索語句が多数ヒットしても、同じサイトから複数回検索された場合は表示が省略される。得られた言語資料の半分はPDFまたはDOCファイルの文書であった。Webページの本質的特徴とも言えるが、検索例は2006年から2007年に作成されたページからのものが多く、殆ど全てが2000年以降に作成されたものである。1994年以前のものはいない。従って、この言語資料を最新のイギリス英語として利用した。

なお、本研究ではdifferent/lyと共起する頻度が高かった4つの動詞について詳細を見て行くことにする。

3 結果と考察

3.1 think different/ly

まず、think different/lyについて、その出現頻度を動詞の屈折形別にまとめたものが次の表1である。

表1では、thinkには約7%の割合で単純形が後続することと、Webの資料からthink (命令

表1 BNCとGoogle資料におけるthink different/lyの出現頻度

	BNC			Google data		
	different	differently	0-form %	different	differently	0-form %
think	2	19	10.5%	87	817	9.6%
thinks	1	3	33.3%	6	128	4.5%
thought		20	0.0%	5	109	4.4%
thinking				6	289	2.0%
全体	3	42	6.7%	104	1343	7.2%

形、単純現在形、不定形) 以外の形でも単純形が後続するがその頻度は半分以下になっていることが判る。

BNCでは検索数が少なく、単純形が出現する割合は信頼性のある値とは言い難く、単純形が近年増加傾向にあるか否かも判断できない。実際に、BNCの単純形検索例3例のうち1例は小説の引用符に囲まれた会話部分に、別の1例は小説の中の口語調モノログに含まれていた。そのために、Webの資料よりも単純形の出現頻度が高くなった。

検索例を個別に見ると、think differentについては次の2点が明らかになった。まず、半数以上が主語のない文で、命令文、企画名などの固有名詞の一部、キャッチフレーズやスローガンになっていた(51%: 104例中53例)。そして、歯切れの良い文体的効果がある「動詞+different」の連続、あるいは「think+単純形副詞又は名詞など」の連続を含む例が多く見られた。

次の(3)(4)(5)は命令文で書かれたキャッチフレーズとなっている例である(以下全ての例においてアンダーラインは筆者)。(3)ではビジネスのキャッチフレーズとして動詞+単純形副詞が二重になっている。

- (3) Innovation Is Key To Business Growth
Themed 'Think Different Grow Fast,'
Invest Northern Ireland's inaugural
Innovation Week, 21-24 March, 2006,
aims to help local firms incorporate
innovation ...
(archive.nics.gov.uk/eti/060320a-eti.htm -)

また(4)は大学のキャリアセンターのWebページからの例で、differentが3回3種類の命令形の動詞の後に続けられている。さらにthink different が一つの複合語となって後の名詞

Eventを形容詞的に修飾する例も含まれている。

- (4) Think different, do different, be different
File Format: PDF/Adobe Acrobat - View
as HTML and quote "Think Different
Event". An event for everyone. An
ideal evening for people in business as
well as those. in the charity or public
sectors, ...
(www1.uea.ac.uk/polopoly_fs/1.37364)

このような複合語の例は他にも見られた(think different conference, think different campaign, think different plan, if you like "think different" など)。

次の(5)は大学の宣伝で、thinkが3回重ねられ、それぞれその後に単純形副詞や名詞が続けられている。

- (5) University Centre Barnsley Home Page
Think Different, Think Higher, Think
University Centre Barnsley. Request
further information by completing our
online enquiry form ...
(www.barnsley.hud.ac.uk)

これらの例のどれを見ても、宣伝文句としての文体的効果を狙った単純形の使用であることは明らかであろう。

一方、differentlyが選択される条件としては、次の2点が明らかになった。まず、to不定詞句で現れる傾向があった(23%: 1343例中314例)。そして、「~について考える」という表現で前置詞aboutが後続する場合に現れる傾向があった(17%: 1343例中233例)。この傾向を如実に表しているのが次の(6)に示したAntConcによるWeb資料のKWIC検索結果の一部である。

(6) Council is calling on people to think differently about adoption. The call com
 Chinese are striving to think differently about the economy and
 is a way of helping you to think differently about your memories, so that
 and ... So, we do need to think differently about how we empower people. ...
 w as HTML You can learn to think differently about it, about the world, and
 change where people begin to think differently about projects and how they
 aim was to get people to think differently about what poetry is and how it
 do so will require us to think differently about each stage of the water
 those lessons helped you to think differently about prejudice, discrimination

また、単純形の場合とは違い、命令文やキャッチフレーズで現れる例は極めて少なかった (1.6%: 1343例中22例)。

3.2 do different/ly

次に扱う動詞doはthinkに次いで単純形の例が多く検索され、-ly形では最も多くの例が検索された。出現頻度は表2の通りである。

Webでは多数の例が検索されたが、BNCでは極めて少数の例しか検索されず、信頼できる値にはなっていない。

過去分詞doneについて見てみると、-ly形の検索数が著しく多かったが、助動詞 (will, would, can, could, should, might) + be/have been/have + doneのパターンの構文がその9割を占めていた。次の(7)はその一例である。

(7) Tameside Metropolitan Borough Council:
 improvement through good ... Looking
 back, is there anything you would
have done differently or lessons that
 stand out ... There is nothing obvious
 that we would have done differently. ...
 (www.idea.gov.uk/idk/core/page.do?pageId=6707594)

このような頻出構文パターンの中では、単純形も多く現れた (57%: 14例中8例)。次の(8)はその一例である。

表2 BNCとGoogleデータにおけるdo different/lyの出現頻度

	BNC			Google data		
	different	differently	0-form %	different	differently	0-form %
do		4	0.0%	27	989	2.7%
does					11	0.0%
did	1		100.0%	2	22	8.3%
done		10	0.0%	14	860	1.6%
doing				13	172	7.0%
全体	1	14	6.7%	56	2054	2.7%

(8) What could have been done different with this project. - To achieve the same or more outputs for the same or less cost... (statistics.defra.gov.uk/esg/evaluation/upland/app4.pdf)

同様に、doについて見てみると、-ly形の検索数が極めて多いが、その大半は先のdoneの場合と同じように助動詞に後続して現れ、しかも全体の半数が疑問詞whatで始まる節の中に現れていた。しかし、doに単純形が続く例は、thinkの場合と同じく、(4)のようなキャッチフレーズの中で現れることが多かった(26%: 27例中7例)。また、複合語として名詞を修飾している(9)のような例もあった。

(9) Vision Programme - The Vision Fund- Most importantly, the Vision Fund will mean UEA can continue to champion the 'do different' ethos, pushing the boundaries of the University and its work for ... (www.vision.uea.ac.uk/fund.html)

単純形の割合が大きかった-ing形については、大文字で始まるキャッチフレーズや固有名詞として現れた動名詞(69%: 13例中9例)と、進行形で現れたものがあった(31%: 13例中4例)。次の(10)はある大学の企画名として使われている例である。

(10) The Vision Programme of the University of East Anglia Norwich UK40 YEARS OF DOING DIFFERENT, Vision badge logo. Coloured aerial photograph of the Colorado River delta, in the Gulf of California. ...

(www.vision.uea.ac.uk/home.html)

ちなみにdoing differentを含む文字列をWebで検索すると、39%(510例中201例)がdoing different thingsであった。他動詞であるdoの場合、疑問詞whatや先行詞any/some/nothingが共起している場合にはdifferentは副詞と判断できるが、そうでない場合にはdoing different thingsのthingsが脱落した形と解釈できるような曖昧な例も若干見られた。

3.3 know different/ly

ほかの動詞と異なり、know differentという句は代表的な英語辞書(*Longman Dictionary of Contemporary English, 4th ed.*; *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English, 7th ed.*) [11,12] に項が設けられており、know otherwise(そうでないと知っている)という意味を表し、インフォーマルな使い方として説明されている。従って、この単純形の句は比較的容認度が高いのではないかと推測できる。出現頻度は表3の通りである。

表3では、knowやその屈折形に単純形が共起する割合が30%から70%で、BNCでも比較的によく検索できたことが判る。これまでに見てきた他の動詞と比較すると、単純形の容認度が極めて高いことが判る。

検索数の多いWebのknow different/lyの例を見てみると、次の(11)のようなifあるいはunlessで始まる条件節の中で現れることが多かった。

(11) If you know different and can tell me where I can access a free, high performance, unrestricted, reliable, online XSLT processor engine, please let me know!

表3 BNCとGoogleデータにおけるknow different/lyの出現頻度

	BNC			Google data		
	different	differently	0-form %	different	differently	0-form %
know	7	2	77.8%	35	50	41.2%
knows	1		100.0%	4	6	40.0%
knew	4	4	50.0%	7	6	53.8%
known		1	0.0%	4	4	50.0%
knowing				1	2	33.3%
全体	12	7	63.2%	51	68	42.9%

(cse-mjmcl.cse.bris.ac.uk/
blog/2006/09/01/1157109386344.html)

概して、例 (11) や次の (12) のように条件節で単純形が現れる場合は、点線部の表現が示す通り、私信的でカジュアルな文脈である。

(12) 4 August 2005 - Mark McLaren's Weblog
- Maybe we even need a JavaScript optimizer tool that does more than trying to reduce the file size, there may be one out there but I've yet to find a good free one (please advise me if you know different).

(cse-mjmcl.cse.bris.ac.uk/blog/2005/08/14.html)

これに対して、次の (13) (14) のように-ly形が使われている例では、ビジネス口調で比較的丁寧な言い回しが使われているという特徴がある。

(13) Bower Brook Club - International Cookery Club Recipes- To the best of our knowledge these recipes have not

been copied from other recipe books but if you know differently then please do not hesitate to contact us. Emails to the Hive, follow the HIVE website link.

(www.defac.ac.uk/bowerbrook/cookery_club_recipes.pdf/file_view)

(14) The Routes to Roots team has done its best to ensure that everything on this website is accurate, but if you know differently, we would like to hear from you. Send your enquiries and comments to enquiries@shropshireroots.org. uk ...

(www3.shropshire-cc.gov.uk/roots/packages/war/war_p04.htm)

単純形では、このような条件節では主語がyouである場合が多く (34%: 35例中12例)、-ly形では小さな割合 (20%: 50例中10例) に留まっている。これは、if/unless you know different/lyは使用頻度の高い言い回しで、その中では単純形が起こり易いことを示していると考えられる。

3.4 say different/ly

最後に動詞sayについて、その出現頻度をまとめたのが表4である。

表4では、knowに次いで単純形の割合が大きいことが判る。

個別の屈折形で見ると、まずsaidだけが単純形の割合が著しく小さくなっている。この原因として考えられるのは、次の(15)に示されているように、「別の言い方をすれば」という意味の熟語said differentlyが頻出しているからである(63%: 67例中42例)。

(15) None of the possible answers in (35a) entails that John didn't hit Bill. Or, said differently, all answers entail that John hit Bill. Presuppositions in how come questions govern the ability to use these questions... (alpha.qmul.ac.uk/~mlw128/Fitzpatrick-WCCFL24.pdf)

この熟語は、文修飾の副詞句として固定的で、単純形では使用されないため、saidでの単純形の割合は著しく小さくなった。

次いでsaysで単純形の割合が小さくなっているが、これはsaysが次の(16)のような法律関係の文脈で現れるためだと考えられる。

(16) Frequently Asked Questions- Payments are made monthly by bank credit transfer, unless your contract says differently. You will be paid on the day before the last working day of every month, with the exception of August and December. ...

(www.staff.bham.ac.uk/faq.html)

この例のように、条件節の主語がcontractである例がsays differentlyの67% (21例中14例)を占めている。このような法律関係の固定的な表現では、単純形は使用されない様だ。

単純形と-ly形がほぼ同じ割合で共起するsayでは、人称代名詞の主語が単純形の場合には多く(54%: 24例中13例)、-ly形では少ない(20%: 20例中4例)ことも判った。

この動詞sayの場合もdoと同じく目的語を取ることが多いので、say different (things)の目的語の名詞が脱落した形という解釈が可能である曖昧な例もあった。

3.5 まとめ

これまでに4つの動詞についてそれぞれの屈折形別に単純形あるいは-ly形が共起する際の出現頻度と特徴を分析した。単純形の出現頻度が

表4 BNCとGoogleデータにおけるsay different/lyの出現頻度

	BNC			Google data		
	different	differently	0-form %	different	differently	0-form %
say	2	1	66.7%	24	20	54.5%
says				12	21	36.4%
said		2	0.0%	3	67	4.3%
saying				4	2	66.7%
全体	2	3	40.0%	43	110	28.1%

数パーセントである動詞 (think, do) もあれば、平均して4割近い動詞 (know, say) もあったが、同じ動詞でも屈折形により共起する頻度が著しく異なるものもあった。単純形が選択される条件は動詞によって様々であったが、概してキャッチフレーズの表現の中や複合語になる時、あるいは比較のカジュアルな文脈では単純形の割合が増加する傾向があった。BNCの検索結果については、極めて検索数が少なくあまり示唆を得られなかった。

なお、Webの検索により、この節で扱わなかった動詞でも単純形副詞differentを伴う例を幾つか見つけることが出来た。比較的検索例が多いものとしてact (1.1%: 69例中 18例), behave (2.1%: 903例中19例), treated (3.4%: 788例中28例) (大半は受動態) などが見つけられたが、単純形と-ly形の選択を決定付ける特徴は見つからなかった。

4 おわりに

本研究では、大規模コーパスとWebから検索エンジンで抽出した言語資料を用いて、イギリス英語における両形副詞について分析を行った。Webの言語は大規模コーパスとは異なり、出典を全ページに渡って緻密に調査しない限り、書き手の年齢や性別、書き言葉と話し言葉の区別や小説・新聞などといったジャンルの区別がとらえ難く、資料の精度の点では多くの課題が残されている。しかし、Webの言語は常に変化する言語を如実に表してくれる無限大量の動的データであり、最新の言語動向を分析するには最も手短な資料である。さらに、本研究で明らかになったように、比較的出現頻度の低い語句の事例を大量に収集できるという最大の利点がある。

大規模コーパスBNCは依然として最も完成された貴重なイギリス英語の資料であることには

変わらないが、作成に多くの労力と時間が費やされたにもかかわらず、その中身が既に10年以上も昔の言語となり、最近のイギリス英語を研究するには些か古くなったという感があることは否めない。また、10億語もの大きさを持つコーパスであっても、広く知られている語法の例を十分に検索できないのも事実である。今後の語法・文法の研究において、Webの言語資料が一層盛んに利用されるようになるのは間違いないだろう。

〈注〉

- 1) 論理的意味が同じであって、語用論的あるいは文体的には同じではない場合がある。
- 2) BROWNは米語コーパス、LOBとICE-GBはイギリス英語コーパス、Oxfordは両英語のコーパスである。
- 3) VIEW (<http://view.byu.edu/>) は、従来のBNC検索ソフトと比較すると、処理も極めて速く多機能である。検索結果の例文表示だけでなく統計的数値も図表で表示してくれる。しかし、利用許可が必要で、1日、1時間あたりの利用回数制限があるため、別の検索ソフトと併用する必要があった。
- 4) コンコーダンサーソフトAntConc は使い勝手が良く、近年は研究者に最も利用されている。サイト (<http://www.antlab.sci.waseda.ac.jp/>) で無料提供されている。

引用文献

- [1] Britain, D. (ed.) (2007) *Language in the British Isles*. Cambridge: Cambridge University Press.
- [2] Crystal, D. (1995) *The Cambridge Encyclopedia of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- [3] Dent, S. (2003) *The Language Report*. Oxford: Oxford University Press.
- [4] Opdahl, L. (2000) *LY or Zero Suffix?*

A Study in Variation of Dual-form Adverbs in Present-day English.
2vols. Frankfurt: Peter Lang.

- [5] Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik (1985) *A Comprehensive Grammar of the English Language*. Harlow: Longman.
- [6] Swan, M. (2005) *Practical English Usage*, 3rd ed. Oxford: Oxford University Press.
- [7] Tagliamonte, S. and R. Ito (2002) "Think really different: continuity and specialization in the English dual form adverbs." *Journal of Sociolinguistics*, vol. 6, no.2, pp.236-266.
- [8] Tottie, G. (2002) *An Introduction to American English*. Oxford: Blackwell.
- [9] 大塚高信・中島文雄 (監修) 『新英語学辞典』 研究社、1982年
- [10] 安井稔・秋山怜・中村捷 『現代の英文法 第7巻 形容詞』 研究社、1976年

辞書・コーパス

- [11] *Longman Dictionary of Contemporary English*. (2003) 4th ed. Harlow: Pearson Education.
- [12] *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. (2005) 7th ed. Oxford: Oxford University Press.
- [13] *The British National Corpus*. (2000) World Edition. CD-ROM. Oxford: BNC Consortium.